

東京学芸大学教職大学院
2018年度 課題研究成果報告会開催要項

●日 時

2019年3月4日(月)

9:15 受付開始

9:30 報告会開始 ※1人あたり20分(発表15分、質疑応答5分)

16:45 報告会終了

●発表者一覧

	講義室1	講義室2	ラーニングスペース
9:30-9:40	開会挨拶		
9:40-10:00	岡田 江奈実 [※]	長屋 聖慰	橋本 怜奈
10:00-10:20	橋本 千里 [※]	大曾根 彬	田中 真里奈
10:20-10:40	萩原 農 [※]	瀬川 正俊 [※]	良永 陽亮
10:40-11:00	新国 寛子 [※]	遠山 友輝	鴨須賀 悠也 [※]
11:00-11:10	休憩		
11:10-11:30	館野 峻 [※]	百瀬 雅治	鈴木 悠太
11:30-11:50	小原 善仁 [※]	塩野谷 涼馬	井上 歩南
11:50-12:10	八島 容子 [※]	安原 求	道端 優侍
12:10-12:30	高野 あみ	酒井 峻	小別當 アキヨ
12:30-13:20	昼休み		
13:20-13:40	大和 啓介	木之下 理紗 [※]	河野 新汰
13:40-14:00	田中 旭	原 梨絵 [※]	齊藤 慎一 [※]
14:00-14:20	石井 由紀 [※]	伊東 美菜	菅 悠太郎
14:20-14:30	休憩		
14:30-14:50	木村 嘉延 [※]	池田 健太郎	三羽 聡明 [※]
14:50-15:10	濱田 昌也 [※]	植野 泰廣	老子 卓治
15:10-15:30	伊藤 穂波 [※]	河野 利枝	森島 一貴
15:30-15:40	休憩		
15:40-16:00	小浦 真史	大塚 和男 [※]	綿貫 俊之 [※]
16:00-16:20	佐藤 桂輔	齊藤 敦 [※]	下田 啓太
16:20-16:40	田中 遼	大竹 秀明 [※]	
16:40-16:45	閉会挨拶		

*印は現職院生

●プログラム

講義室1 (1F)

9:40-10:00	岡田 江奈実	校内での若手教員育成の方法とその効果の検証—総合的な学習の時間におけるルーブリックを用いた評価を活用したパンフレット作成を通して—
10:00-10:20	橋本 千里	児童の分かり方の特性を生かした授業分析フィードバックの効果と活用
10:20-10:40	萩原 農	教員の授業力向上に向けたOJTの在り方—学年会を活用した授業リフレクションプログラムの開発とその可能性—
10:40-11:00	新国 寛子	学校問題を未然に防ぐための保護者との関係づくり—保護者の願い・子供の願いに着目して—
11:10-11:30	館野 峻	地域とともに学びのコミュニティをつくる学校・生涯学習社会の一員としての教職員の在り方—立場を越えた他者との対話の場の開発と実践を通して—
11:30-11:50	小原 善仁	ミドルリーダーから管理職への移行期における教員の管理職思考の要因分析—副校長を対象としたアンケート調査を通して—
11:50-12:10	八島 容子	教師の学習者としての経験が授業に与える影響についての考察
12:10-12:30	高野 あみ	対話型模擬授業検討会における「語られ方」の変容
13:20-13:40	大和 啓介	国語科の話し合いにおける多様な聞き方に関する分析—学習者の「沈黙」の時間に着目して—
13:40-14:00	田中 旭	付箋による可視化が話し合い活動に与える影響—中学歴史分野の実践研究を通して—
14:00-14:20	石井 由紀	創造的な読みの力を育成するための指導の工夫—中学校国語科におけるメディアの活用—
14:30-14:50	木村 嘉延	生徒指導における教員の状況判断と行動—OODA ループと模倣—
14:50-15:10	濱田 昌也	学校評価と関連付けた授業改善システムの構築—管理職の「授業観察の視点」を軸とした人材育成—
15:10-15:30	伊藤 穂波	メンターリーダーの学びを促進するメンターチーム研修の在り方—メンターリーダーへのインタビュー調査を通して—
15:40-16:00	小浦 真史	物理学における概念形成のための言語化に関する研究
16:00-16:20	佐藤 桂輔	高等学校数学科における問題解決力の育成を目指した授業—ナラティブ的探究を通して—
16:20-16:40	田中 遼	高等学校理科授業における学ぶ意義が変容する過程に関する—考察—学習履歴表の分析を通して—

講義室2 (1F)

9:40-10:00	長屋 聖慰	理科における生徒の自律的な科学的探究活動を支える教師の手立てに関する研究—「探究の技能」を軸とした「生徒の見取り」と「譲り渡し」に着目して—
------------	-------	--

10:00-10:20	大曾根 彬	中学校理科における思考を促すワークシートを活用した考察指導についての検討
10:20-10:40	瀬川 正俊	小学校理科指導から始める授業支援方法の構築
10:40-11:00	遠山 友輝	理科の授業において子供たちが自ら問いを見出す指導法の研究—目的を持った自由な試行活動の実施を通して—
11:10-11:30	百瀬 雅治	高等学校公民科における生徒の意思決定を目指した主権者教育の実践 — 多面的・多角的な考察に着目して—
11:30-11:50	塩野谷 涼馬	日本史学習における教師の指導方法が生徒の問い生成に与える影響
11:50-12:10	安原 求	「文章を書くこと」における難しさの所在と個に応じた指導の手立て—小学4年生に対する作文指導の実践を通して—
12:10-12:30	酒井 峻	思考力を高めるための質問作りを活かしたプロジェクト学習の有効性の検討—小学校6学年社会科歴史分野の授業実践を基に—
13:20-13:40	木之下 理紗	国際バカロレア コア科目 Theory of Knowledge の趣旨を踏まえた授業の可能性—新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の観点から—
13:40-14:00	原 梨絵	「主体的・対話的な学び」を「深い学び」に到達させる指導と評価の一体化—対話場面における形成的評価を通して—
14:00-14:20	伊東 美菜	道徳的価値を「自分事」として考える道徳授業の在り方の追求—児童の実態を生かした手立てをもとに—
14:30-14:50	池田 健太郎	情報活用能力の育成に向けた資料の取り扱いについて — 中学校社会科の視点から —
14:50-15:10	植野 泰廣	社会形成力育成を目指した歴史分野の実践研究 —「市民社会科」の授業理論を活用して—
15:10-15:30	河野 利枝	家庭科における製作進度の差を小さくする学習指導案の提案—教師の指導上の要因分析から—
15:40-16:00	大塚 和男	ICT 機器を活用した学校改善方策について—教育の情報化の推進の観点から—
16:00-16:20	齊藤 敦	学校経営ビジョンの実現に向けた学校改善を促す学校組織マネジメントの要因分析—ミッション・マネジメントの要素を視座とした学校分析を通して—
16:20-16:40	大竹 秀明	公立高等学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に向けた教育委員会による支援策について

ラーニングスペース (2F)

9:40-10:00	橋本 怜奈	高校生の自己受容・他者受容の傾向とそれを生かした授業実践
10:00-10:20	田中 真里奈	中学生の主体性の向上と過剰適応傾向の抑制について—校内美化活動の実践を手がかりに—
10:20-10:40	良永 陽亮	児童一人ひとりに自尊感情をもたせるための手立て—肯定的な振り返り活動を通して—
10:40-11:00	鴨須賀 悠也	教師の自尊感情を高める意識が児童に与える影響についての研究
11:10-11:30	鈴木 悠太	多面的・多角的な思考を生かした道徳授業の在り方—児童の学び方や意欲の特徴をふまえた方策づくりを通して—

11:30-11:50	井上 歩南	子どもの人間関係づくりにおける集団遊びの有効性を探る研究—めあてと振り返りを伴う意図的な集団遊びの実践を通して—
11:50-12:10	道端 優侍	エスノグラフィーを通してインクルーシブの内実を探る—参与観察者として交流及び共同学習の在り方に着目して—
12:10-12:30	小別當 アキヨ	中学校通常の学級における特別な配慮を必要とする生徒の支援の在り方—学級担任の校内での連携に関するインタビュー調査を通して—
13:20-13:40	河野 新汰	生徒の保健学習への意欲を高め、主体的な学びに繋げる授業づくり—高等学校保健学習に着目して—
13:40-14:00	齊藤 慎一	体育学習(ゲーム領域)における社会性の育成に関する—考察—社会性とゲーム観の関係に着目して—
14:00-14:20	菅 悠太郎	学級活動における話し合いに関する分析—ピースタの「主体化」の理論を用いて—
14:30-14:50	三羽 聡明	児童が探究する算数科授業の要因へのナラティブ・アプローチ—若手教員育成への「語り」の応用可能性—
14:50-15:10	老子 卓治	思考が深まる対話的な授業に関する研究 —数学科の授業における表現する過程に着目して—
15:10-15:30	森島 一貴	生徒が数学を学ぶ意義を感じられる授業づくり—「問題づくり」を通して—
15:40-16:00	綿貫 俊之	高等学校における自己の向上のためのeポートフォリオ活用に関する研究
16:00-16:20	下田 啓太	高等学校教育改革に向けた観点別学習状況の評価に関する提案

●教職大学院見取図

2Fサロンスペースでは、課題研究を通して作成した成果物を展示しております。
また、お茶とお菓子の用意もございますので、交流にお役立てください。

